

揉・摺機ラブ・マシンの特徴

1、ラブ・マシン機械本体の特徴

①剪定枝、竹、ツル性植物、草等が前処理なしで直接投入できるため、機械が1台で処理可能。

条件:SRM-15=最大直径φ65mm

SRM-50,-100=最大直径φ100mm

ただし、竹の場合は先端を割れば大径物まで投入可能です。

②また、大きいものはチップ状に前処理して投入可能。

③電動モーター式で作業音がほとんどしない静音型。

④低速・低振動なので安全性が高い。

⑤自動反転機能付きで使いやすく故障が少ない。

⑥独自の制御方式で効率よく電気を消費するため省エネを実現。

2、ラブ・マシンで加工された解砕繊維の特徴

解砕繊維はチップで加工されたチップ、おが粉製造機で加工されたパウダーと違い、ラブ・マシンの中で磨り潰されています。その為、他の機械で加工された粉碎物とは違う様々な特徴があります。

①植物を機械内で「もみ・すり」加工を「高温・高圧」で行うため、加工物の粒径が小さくなり、表面積は大きくなる。とくに、0.5mm以下の微粉の占める割合が他の機械加工品にくらべると非常に多い。また、種子・雑菌等の死滅割合も高くなる。

②植物の組織を破壊または傷つけているので、堆肥化の場合、発酵速度が速く高速堆肥化が可能となる。その為堆肥化施設も縮小できコストの低減も図れる。

③製品にふわふわ感があり、加工物の先端が針状になりにくいので、畜舎敷料として利用しやすい。

④竹の場合は、ラブ・マシンで加工した生の状態の解砕繊維を直接畑に施用でき、他の機械での処理と違い完熟するまでの時間が節約でき、設備も極小となる。